

学校と家庭と地域を繋ぐ学習者用端末の活用

佐賀県 佐賀市立若楠小学校 教諭 内田 明
uchizou@gmail.com

キーワード：小学校、家庭科、実践意欲、コミュニケーション、地域の絆

1. はじめに

本校は、総務省「ICT絆プロジェクト」実証校である。4年生以上全教室に電子黒板と書画カメラ、全教科の指導者用デジタル教科書、4年生以上全児童1人1台の学習者用タブレット端末(TOSHIBA T-01)が整備されている。端末にはwebカメラが搭載されており、画像や動画を撮影し、学習に生かしている。

そこで、小学校家庭科において、学校での学習の成果や家庭での実践の様子を、写真を通して学校・家庭・地域で共有し、コメントし合う活動を仕組んだ。学校・家庭・地域・児童同士をつなぎ、楽しくコミュニケーションすることで、児童の学校や家庭での実践意欲を高めることをねらった。また、学校や家庭での児童の実践について広く知ってもらい、よいところをほめてもらったりアドバイスをしてもらったりするなど活動に参加してもらうことで、地域の絆を深め、新しい形での学校広報や地域教育力・家庭教育力の構築にもつながることを期待した。

2. 実践について

2. 1 実践の流れ



写真1 アップロードの様子

本実践は、第5学年において、主に家庭科の学習で、学習者用タブレット端末とインターネット上の写真共有サービス「Picasa」を活用する。児童が学校での調理実習の様子や調理した成果物を自分のタブレット端末で写真に撮り、インターネット上の写真共有サイト「Picasa」にアップロードする。(写真1)



写真2 家庭からのコメント

保護者や地域の人が、アップロードされた写真をコンピューターやタブレット端末、スマートフォン、携帯電話から見て共有することができる。また、アップロードされた写真に感想やアドバイスなどをコメントしたり(写真2)、必要な写真をダウンロードしたりすることもできる。

さらに、地域の情報や家庭での実践の様子を写真に撮ってもらい、コメント付きでアップロードすることもできる。(写真3)その写真から情報を得たり、写真を使って実践報告会をしたり、児童もコメントを返したり、児童同士や児童と地域の方、他の保護者と児童

童、地域の方と保護者との間でのコメントのやり取りも行っている。9月現在、家庭科以外にも活用の範囲を広げ、他教科の学習の様子や学校行事の様子、児童が取り組んでいる自主学習ノートの掲載、学校からの連絡プリントの掲載も行っている。また、3学級ある5年生全学級が同じ活動を行っている。

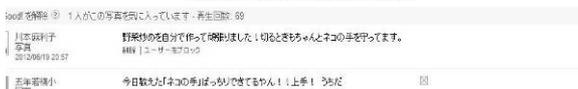


写真3 家庭での実践

本校5年1組では現在、32家庭中31家庭がpicasaの活動に参加している。活動に参加していない家庭は、以前通り紙媒体でのやり取りを行っている。地域からは、料理や裁縫が得意な一般の女性2名、公民館の主事2名(写真4)、地元のスーパーマーケットの職員1名が参加している。写真のアップロードはすべて一旦非公開のフォルダに保存され、担当がチェックした上で公開しており、トラブルは起こっていない。Picasaの学習活動をしながら、コンピューターリテラシーや、肖像権やネット上への書き込みをする時の注意点等情報モラルについての学習も同時に進めている。



写真4 公民館よりアップロード

2. 2 一学期の実践

1学期の実践「はじめてみようクッキング」では、まず、基本のゆで野菜サラダの調理を生かして、自分の家族の課題を解決するためのスペシャルサラダ(仕事が忙しくて疲れているお母さんのために、ビタミンたくさんの元気が出るサラダ等)を学校で調理し、児童用タブレット端末のWEBカメラで写真を撮り、保

護者や地域の人に見てもらって感想やアドバイスを打ち込んでもらった。そのことで児童は実践意欲を刺激され、コメントを参考に計画を見直した。次に児童は家庭でスペシャルサラダ作りを行い、その様子やサラダの実物を保護者に撮影してもらい、Picasa に感想付きでアップロードしてもらった。その写真を学校の電子黒板で表示させ、サラダに使った材料や工夫した所、家族の反応などを発表する「家庭実践報告会」を行い、情報をクラス全体で話し合いながら共有した。また、児童同士、児童と保護者、児童と他の保護者、児童と地域の方で写真にコメントをし合った。その中で自然発生的に、保護者と地域の方とのやり取りも見られるようになった。

2. 3 二学期の実践

2 学期の実践「元気な毎日と食べ物」では、ごはんのみそ汁作りにチャレンジした。スーパーマーケットの職員が Picasa を活用して、旬の野菜情報をアップロードしてくださった。その情報を参考に具材を決め、昨年 6 年生が育てた大豆を使って 5 年生が自分達で作ったみそで、家族の課題を解決するスペシャルみそ汁作りの計画を立てた。お互いの計画についてグループで話し合い、よりよいみそ汁になるようにアドバイスをし、計画の見直しを行った。その際、地域の方が自分の家庭の課題を解決するために作ったみそ汁の写真をアップロードして下さり、実の取り合わせや栄養バランス、切り方、彩りの見本となった。その後、計画したみそ汁を家庭で作り、Picasa にアップロードし、実践報告会を行った。その際、家庭や地域からだけでなく、児童同士も他学級の児童が作ったみそ汁についていいところやアドバイスをコメントし合い、今後の実践の参考とした。

2. 4 三学期の実践（予定）

3 学期には、来年度大豆作りに取り組む予定の 4 年生、大豆の栽培や加工を指導して下さった地域の方、Picasa でお世話になっている方を引き、みそ汁を食べてもらい、交流を深める予定である。

家庭科におけるその他の学習者用端末の活用としては、学習した玉結び・玉留めの仕方、野菜の洗い方、切り方、ゆで方等を児童が動画で記録し、いつでも振り返り学習ができるようにし、技能の定着をはかった。また、タイマーソフトをインストールし、調理実習の際のキッチンタイマーとして活用した。

3. 成果と今後の展望

2 学期末に児童へ行ったアンケートによると、Picasa の活動が楽しいと答えた児童は 3 2 人中 3 2 人であった。理由は

- ・いろいろな人にほめてもらい、コメントを返すのが楽しく、もっと工夫した物を作ろうと思うから
- ・家の人にどんな料理を作ったのか知ってもらえるから
- ・家の人と話をしながら写真を見るのが楽しいから
- ・友達の写真を見て自分も作ってみようと言う気になるから
- ・いろいろな人のアドバイスが役に立つから

などがあつた。長期休業中には児童全員が家庭でサラダのみそ汁を作ることができ、学校で学んだことを生かした家庭での調理や裁縫の家庭実践の様子が

Picasa へアップロードされるようになった。このことから、Picasa の活用が児童の実践意欲を高めていると考えられる。（写真 5、6）



写真 5 picasa をチェックする児童



写真 6 Picasa にコメントする児童

また、保護者へのアンケートでは、

- ・子どもの様子をすぐを知ることができて、学校に関心もてるようになった
- ・一緒に写真を見ながら親子の会話の機会が増えた
- ・父親が関心を持ってくれるようになった
- ・他の子のレシピが家庭で役に立った
- ・子どもが家庭で調理をする機会が増えた

などの感想をいただいた。

地域の方へのアンケートでは、

- ・偶然会った時に子どもたちが声をかけてくれ、すんなり仲良くなるのができて嬉しかった
- ・子どもたちとやり取りをする中で、学校での教育活動や家庭での子どもたちの様子にふれることができ、より関心もてるようになった
- ・保護者や子どもからお礼を言われて嬉しかった

などのコメントをいただいた。学校・家庭・地域が繋がりが、新しい形での絆を深めている。（写真 7）



写真 7 地域の方からのコメント

今後は、他学年や、図画工作科の鑑賞領域への活用等他教科へも活用を広げたい。より多くの保護者や地域の方、教科の専門家にも参加してもらい、コミュニケーションし、学習に生かしていきたい。